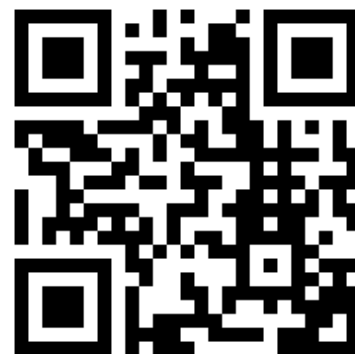


科学博物館 「毒」展のお話

11/20（日）に有志で国立科学博物館こくりつかがくはくぶつかんの特別展「毒」に行ってきました。ティ
ープロの入り口横にもパンフレットを掲示してありま
す（まだ予備もありますので、興味きょうみのある方はご自由
にお持ちください）が、「毒」というあやしさを感じさ
せる言葉ひに惹かれる生徒はやはり多いようで、10名強
の参加となりました。中には、家族ですでに1回来て
いて、2回目の観覧かんらんという生徒もいました。



オフィシャルHPのQRコード

ここからはネタバレを含みますので、予備知識なしで見に行きたい、という人
は読まないでくださいね。

全体としては、自然界に存在する毒、中でも生物が持つ毒についての展示が多
かったように思います。ヒトに対しての毒だけではなく、イヌやネコなどの身近
な動物にとっての毒や、へびや昆虫が狩りや自衛のために使う毒こうせいぶっしつ、抗生物質など
微生物びせいぶつに対する毒なども扱われていました。

逆に、人間が作り出した毒については、第一次世界大戦から使用された毒ガス
として塩素ガスえんそ（漂白剤ひょうはくざいと洗剤を混ぜると発生することがあるため、事故死の
原因にもなっている気体）や、近年海洋生物への影響えいきょうが問題になっているマイ
クロプラスチックなどに関する展示があるものの、兵器としてテロや暗殺に使
われた毒物（たとえばサリンやVXガスなど）に関する展示はほとんどなく、自
然（特に生物）について研究を行っている研究者が主体となった展示なのだな、
ということを感じました。

自分たちで作りだした「毒」が、まわりまわって環境問題^{かんきょうもんだい}などとして自分たちを苦しめることになる、という文明の負の側面について考えさせられる展示もありましたが、逆に毒を薬として使用することで病気を克服^{こくふく}してきた面についての展示もありました。

毒とも上手につきあっていこう、というテーマにはとても納得できる場所がありました。「毒にも薬にもならない」という慣用句もあるとおり、なんの役にも立たないよりは毒の方がまだ使い道がある、というのが人間的な考え方なのかもしれません。

恐れるとしても正しい知識を持って正しく恐れる、役立てるならなおのこと正しい知識を持って運用する必要がある、ということは、毒や薬だけでなく、あらゆることにあてはまるのではないかな、と思ったりもしました。

余談ですが、展示の最後に、監修^{かんしゅう}の先生方についての展示があり、そこで「薬にもなるアルコールですが、取りすぎはやはり毒です。上手にたしなみましよう。」
「アルコールは薬にはなりません、ついつい飲んでしまい、次の日に『やはり毒だよね』と後悔する。」
という 2 人の先生のコメントが並んでいたのには笑ってしまいました。お酒との付き合い方、大事ですよ。

22/11/24 (ワクチン接種後のため禁酒中) あん Do